

卒業生へ贈ることば



『日々是好日』 校長 柴田 喜代子

六年生の皆さん、この言葉を知っていますか？この言葉は、校長先生が、初めて「先生」という職業に就いたとき、その学校の校長先生に教わった言葉です。『命あるもの、明日という日が必ず来るとは限りません。この一瞬一瞬を大切にしてください。』という教えです。「学級の子供達との出会いを大切に、今できる先生の全力を尽くして子供達と向き合ってくださいね。」と言われました。この言葉を心に教師生活を続けてきました。

今、校長先生が、ここにあるのはこの言葉のおかげです。ぜひ、六年生も一日一日を大切に「自分の夢や目標」に向かって進んでください。応援しています。



『前へ』 教頭 高武 龍彦

6年間の小学校生活を終え6年間通った井野小学校を去ることは大変寂しいことと思いますが、皆さんには、夢や希望あふれる新しい「未来」が待っています。その未来には、喜びもあり、時には悲しみもあると思います。しかし、そのような経験を重ねていくことが、皆さんの成長につながります。今ここにいるという喜びを感じ、夢や希望をもって、一步一步「前へ」歩んでください。



「己の欲せざる所人に施すこと勿れ」

PTA会長 服部 誉朗

卒業する皆さんへ私から皆さんへのメッセージです。論語（中国の経書）の一篇でテーマはおもいやりです。意味は、

「自分が人からされたら、いやだなと、思うことは、人にはしてはいけません。いつも、相手を思う、いたわりの心をもてたらいいですね」ということです。井野小のテーマでもあった「やさしい子」のように、いつも相手を思う、いたわりの心をもった、青年へと成長されることを願っています。ご卒業おめでとうございます。



～編集後記～

今年度も1年間で広報誌を3回発行いたしました。

感染症によってできなかった行事ができるようになり、皆さんにとっても日常が戻ってきたように感じる一年間だったのではないかと思います。広報委員として井野小学校の年間行事に携わると、いっこたちの学校生活には、多くの人たちの力をお借りしているのだと感じ、改めて、素敵な学校だと実感した1年でした。

一年間、ありがとうございました 広報委員 一同

第100号 井野小だより

ほんげんぎょう

令和6年1月13日

発行 井野小学校PTA広報委員会
発行日 令和6年3月11日



6年生の願い



お清め



ぜんざい振舞



「ほんげんぎょう」はコロナウイルス感染症の影響で開催を見送ってまいりましたが、今年4年振りに再開することができました。井野区(自治会)の伝統行事が、現在では井野小学校区全体を巻き込み、児童が「しめ飾り」や「お札」を持ち寄り体験することで、その歴史を学ぶことができる学校行事としての役割も担っています。

学校関係者や地域の皆様には早朝より設営準備等のご協力を賜り、無事執り行う事ができ感謝申し上げます。この伝統行事を今後も若い世代に伝えていく為にも、引き続き皆様のご協力を頂けると幸いです。

井野小学校区コミュニティ運営協議会 会長 石田 信行